

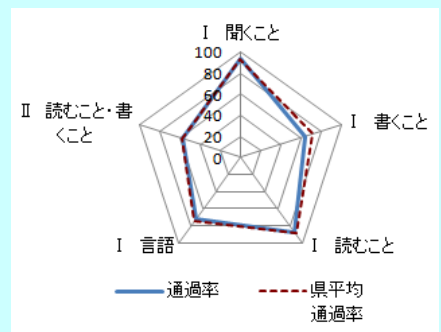
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.2%, 県 74.7%)

対県比 96.7%

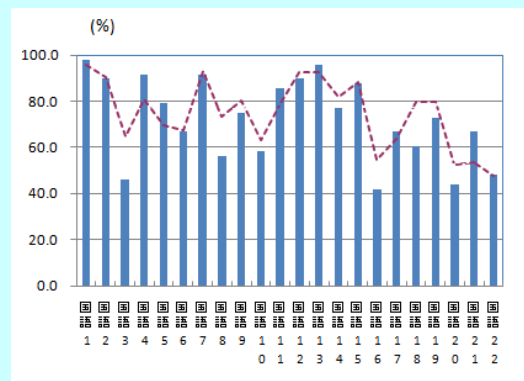
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



教科別の平均通過率



A問題	B問題
本校 67.0 %	本校 66.2 %
全国 70.0 %	全国 65.4 %
県 73.8 %	県 69.7 %

○全体的な傾向
A問題、B問題の全体の正答率は差があまり見られない。A問題でのよい領域は「書くこと」であった。このことから基本的な内容については定着していることが考えられる。一方で両領域とも「読むこと」に課題がある。

○昨年度の課題への取組の成果・課題
昨年度は、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関連付けながら「書くこと」に課題があった。本年度もB問題での「書くこと」の領域において、「文章と図を関連付けて自分の考えを書く」ことに課題があり、指導の改善が必要であると考える。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 100 %

重点課題

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査
・「書くこと」において、目的に応じた記述をする問題で、取材メモから必要な情報を選択し、2つの文を1文にして書くことに課題がある。(通過率 41.7%)
・「書くこと」において、情報の取り出し・理由や事例を挙げた記述をする問題で、十分な情報を取り出し、接続語を使って論理的につながった文章を書くことができた児童が25.0%だった。(通過率 47.9% ※準正答を含む)

【課題2】全国学力・学習状況調査
・「読むこと」の領域で、コラムの中で筆者が引用している言葉を書きぬく問題で、筆者の意図や思考を想定し、文章全体の構成や表現の工夫を捉えることに課題がある。(正答率 10%) 文章中の引用の意味を正しく捉えられていない児童が33%であった。
・「書くこと」において、楽器の分担の決め方について書く問題で、文章と図を関連付けて、自分の考えを書くことに課題がある。(正答率 35.7%) 3つの条件を満たして文を書く問題であったが、3つとも満たして書けていない児童が40%であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査
・指導項目を焦点化して指導する。
・課題に対して、必要な情報を取り出し、正確に伝えることができる指導を行う。
・自分の生活を見つめる作文を定期的にかかせ、その中で文章構成や論理的につながった文章の指導を行う。

【課題2】全国学力・学習状況調査
・「記事の書き方」に注意して読む指導を行う。特に、コラムの特徴を捉えるために、実際の新聞の中からコラムを集めて多読し、どのような話題が取り上げられているのか、それに対して筆者がどのような考えをもっているのか比べ読みするような指導を行う。
・文章と図やグラフなど関係付けて、自分の考えをまとめる指導を行う。説明的な文章を書く際に図やグラフなどを効果的に用いることができるように指導をする。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		4年生1学期 復習テスト・漢字テスト		4年生2学期 まとめテスト・漢字テスト	4年生 H26「基礎・基本」	4年生 H27「基礎・基本」	4年生 学年末テスト
目標値		80.0%		80.0%	60.0%	70.0%	85.0%
実施後数値							

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生1学期 復習テスト・漢字テスト		4年生2学期 まとめテスト・漢字テスト	5年生 H27「全国学力」	5年生 H27「全国学力」	5年生 H27「全国学力」
目標値		80.0%		80.0%	60.0%	70.0%	85.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 70.7%, 県 71.6%)

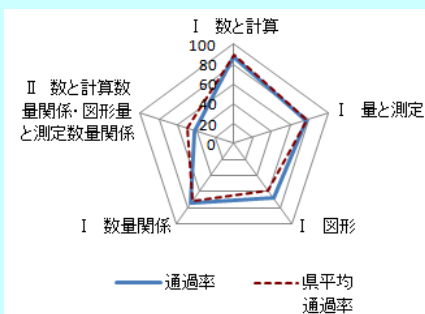
対県比

98.7%

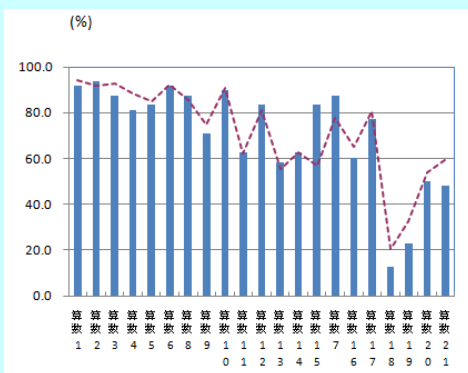
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



A問題

本校 74.9 %
全国 75.2 %
県 77.7 %

B問題

本校 39.9 %
全国 45.0 %
県 46.7 %

○全体的な傾向
A問題の正答率が74.9%、B問題は39.9%となっている。このことから「活用」に関する問題に課題があることがわかる。A問題では、「数量関係」の正答率がよかった。一方で「図形」領域には課題がある。
○昨年度の課題への取組の成果・課題
昨年度は示された条件等を整理し、答えを選んだ理由を書く問題や図形の定義や性質を使って解く問題に課題があり、本年度も同じ傾向にある。指導の改善が必要であると考えている。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

100%

重点課題

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

- 折れ線グラフと棒グラフを関連付けて考え、説明する問題に課題がある。折れ線グラフの数値の変化を正しく表した棒グラフを選び、説明できた児童は12.5%であった。
- 時刻表から、条件を満たす時刻を選択する問題に課題がある。2つの条件を満たした時刻を選択できた児童は22.9%であった。

【課題2】全国学力・学習状況調査

- 「数量関係」の領域の、示された情報から基準量を求める問題に課題がある。(正答率7.1%) 20%増量は、0.2ではなく1.2を用いるという捉えをしていない児童が45.7%であった。
- 「図形」領域の、長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題に課題がある。(正答率12.9%) 記述の中の根拠となる事柄が不足している児童は35.7%であった。

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

- 折れ線グラフや棒グラフに数値を書き込む等、手がかりを書きこむよう指導する。
- ノートに考え方を明記させる。ナンバリングして考えを整理し、それを用いて論理的に説明するよう指導する。
- 問題文の意味をしっかりと理解させる。そのために、文章問題で必要な条件に実線、求めることに波線を引くよう指導する。また、問題文を図や数直線、表等に示し、それをもとに立式するよう指導する。

【課題2】全国学力・学習状況調査

- 示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉え、基準量を正しく求めることができるような指導をする。数直線を用いて、数量の関係を整理するなど指導の工夫を行う。
- 示された考えを基に、根拠となる事柄を過不足なく説明することができるよう指導する。日常的に自分の考えを説明する際には、根拠を明確にし、ナンバリングを用いるなどして過不足なく説明できるようにする。根拠が不足している場合には、「もっと詳しく言えませんか。」と発問し、解決のために必要な根拠を示す説明となっているか話し合うなどの工夫をする。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		4年生1学期 復習テスト		4年生2学期 まとめテスト	4年生 H26「基礎・基本」	4年生 H27「基礎・基本」	4年生 学年末テスト
目標値		80.0%		80.0%	60.0%	70.0%	85.0%
実施後数値							

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生1学期 復習テスト		4年生2学期 まとめテスト	5年生 H27「全国学力」	5年生 H27「全国学力」	5年生 H27「全国学力」
目標値		80.0%		80.0%	60.0%	70.0%	85.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.5%, 県 65.3%)

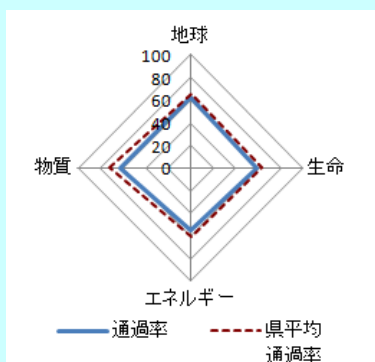
対県比

91.1%

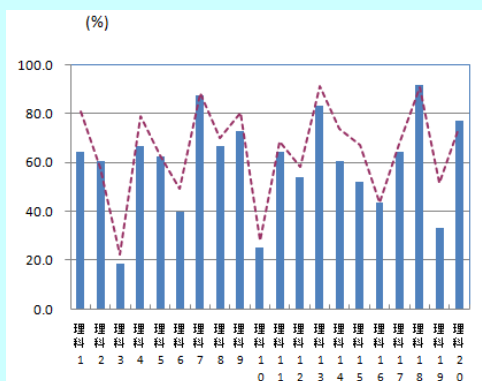
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



A問題	B問題
本校 59.2 %	本校 52.6 %
全国 61.3 %	全国 60.5 %
県 63.6 %	県 62.9 %

○全体的な傾向
A問題の正答率は 59.2%、B問題の正答率は 52.6%でかなり低い結果であった。特に正答率が低い領域は「物質」で、47.6%であった。また、「地球」の領域の正答率も 53.3%と低い。

重点課題

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】「基礎・基本」定着状況調査
- ・並列つなぎの回路のつなぎ方を図に表すことに課題がある。正しく図に回路をかくことができた児童が 18.8%であった。
 - ・昆虫の体について、頭・むね・はらの区切り方を答えることに課題がある。正しい区切り方を選び、理由を説明できた児童は 25.0%であった。
- 【課題2】全国学力・学習状況調査
- ・粒子に関する問題に課題がある。中でも、析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述する問題の正答率は 15.7%であった。誤答を見ると、冷やすことで析出する砂糖の量と、その温度で溶ける砂糖の量との区別ができていない児童が 48.6%であった。
 - ・物の溶け方の規則性に関する問題で、水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できるかどうかをみる問題の正答率が 30%であった。

- 【課題1】「基礎・基本」定着状況調査
- ・直列つなぎと並列つなぎの性質を十分理解させる。そのために、回路を様々につなぐ実験をしっかりと時間をとって行う。また、条件に合うように、図に回路をかきこむ学習を繰り返しさせる。
 - ・昆虫の体のつくりを学習した後、様々な動物にそのつくりが当てはまるかを考える学習を繰り返し行う。
- 【課題2】全国学力・学習状況調査
- ・変化とその要因とを関係付けて考えることができるような指導を行う。そのために、水の温度を上げながらミョウバンなどが溶けていく様子とともに、温度を下げながら析出の様子をじっくりと観察する場面を授業に設定する。このような観察を繰り返し行うことで、実感を伴って理解させるようにする。
 - ・自分の予想と実験結果を照らし合わせ、より妥当な考えに改善できるような指導をする。自分の予想が実験結果と一致しない場合には、より妥当な考えに改善するために、予想を振り返り、見直し、再検討したり、他者の予想を振り返ったりすることで自分の考えを修正し結果から適切に考察できるように指導する。

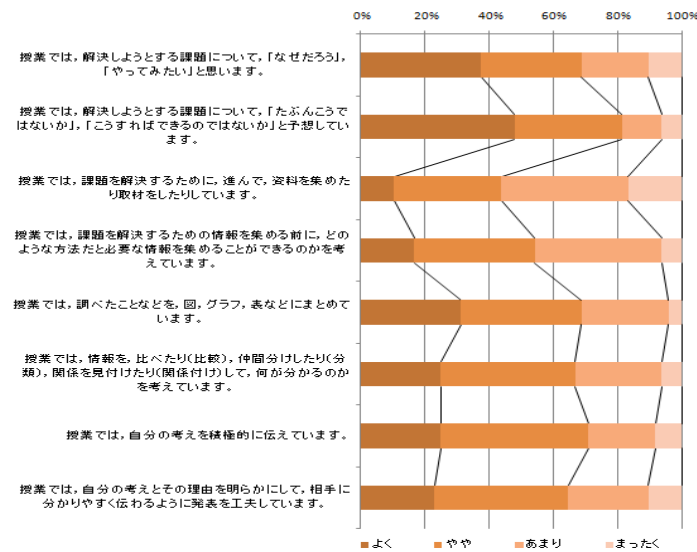
「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				4年生2学期 まとめテスト	4年生 H26「基礎・基本」	4年生 H27「基礎・基本」	4年生 学年末テスト
目標値				80.0%	60.0%	70.0%	85.0%
実施後数値							

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生1学期 復習テスト		5年生2学期 まとめテスト	5年生 H27「全国学力」	5年生 H27「全国学力」	5年生 H27「全国学力」
目標値		80.0%		80.0%	60.0%	70.0%	85.0%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

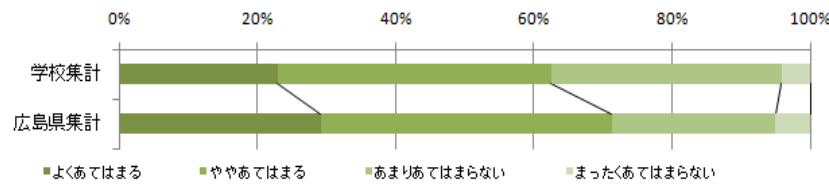
「課題発見・解決学習」(1)



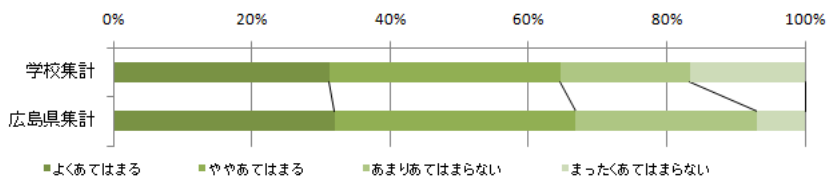
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
授業で、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしていると答えた児童は、43.7%であった。	教科・総合的な学習の時間に課題解決的な学習を仕組み、必要な資料を本・新聞・インターネット・取材等様々な方法で収集する授業をする。また、学校・家庭で「読書貯金」の活動に取り組み、読書量を増やし、情報を収集する機会を増やす。	5	65%	児童アンケート	5年3学期		

(2) 教科

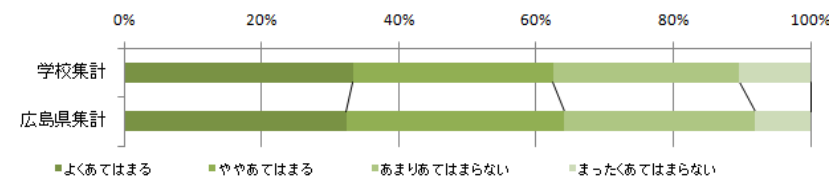
国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしていると答えた児童は62.5%であった。	受容的な雰囲気の中で、5W1Hを意識した、聞き手に伝わるスピーチができるよう指導する。	5	75%	児童アンケート	5年3学期		
算数	解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明していると答えた児童は64.6%であった。	ノートに、ナンバリングして考えを整理して書き、論理的に説明するように指導する。	5	75%	児童アンケート	5年3学期		
理科	自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていると答えた児童は62.5%であった。	実験前に予想をし、自分の考えを明確にもたせるように指導する。また、結果を発表する際、結果から考察したことを発言させる。	5	75%	児童アンケート	5年3学期		